5/9 朝刊
（第３種郵便物認可）　神戸新聞　2012年（平成24

20年ぶり 淡路市内 産婦人科

2年後には分娩室も整備

淡路市内では20年ぶりとなる産婦人科が、市南鵜崎に建設予定の新病棟では分娩室を整備し、出産に対応できる体制を目指す。同市岩屋の聖隷淡路病院に開設された。4月から担当医師2人が、妊娠診断や分娩予定日決定などの診療をしている。2014年に同

（敏蔭潤子）

岩屋の聖隷淡路病院開設

住民要望に添う医療を

同病院は静岡県浜松市に本部を置く聖隷福祉事業団が経営。同事業団は1都7県の約100施設で病院、障害者、高齢者施設の事業を展開する。

淡路市内では20年前、現在の同市志筑にある病院で産婦人科がなくなった。現在は産婦人科がなく、市民は神戸市や洲本市の病院を利用している。このため市が、聖隷淡路病院に分娩機能のある産婦人科の新設を要望。12、13年度で計7億5千万円の建設費補助を予定する。

同病院は1999年に開設。2010年に婦人科を新設し、依藤正彦医師が週3日間診療していた。今年4月、聖隷三方原病院（静岡県浜松市）の産婦人科部長山本信博医師(49)が赴任し、2人体制となったことで産婦人科を開設。子宮筋腫や卵巣のう腫など良性の婦人家系疾患の手術もしている。

聖隷淡路病院は今後、助産師や医師を増員し、妊婦の診療もする予定。山本医師は「住民たちの要望に添った医療を提供したい」と話す一方で、「新病院は小児科がない。未熟児の分娩など高度医療は、島内や神戸市などの近隣の病院と連携しながら取り組みたい」としている。

新設された産婦人科を担当する山本信博医師（左）と依藤正彦医師＝聖隷淡路病院